

中井 秀範（なかい・ひでのり）先生

吉本興業株式会社 執行役員
吉本お笑い総合研究所 理事

1958年10月22日、富山県高岡市生まれ

1981年 慶応義塾大学法学部法律学科卒業

1981年 吉本興業株式会社入社。

入社後、桂三枝、桂文珍、明石家さんま、ダウタウン等のマネージャーを歴任。その傍ら、テレビ番組、舞台のプロデュースを担当。心斎橋筋2丁目劇場の創立、吉本新喜劇プロジェクトにも参加。

1994年 セールスプロモーション部課長

1995年 株式会社ダイナウエアとの資本提携により設立されたメディアマジック・インタラクティブ株式会社の設立に伴い、取締役として出向。

1998年 吉本興業株式会社本社に戻り、大阪制作本部
業務推進室 室長

2000年 KDDIとの合併によるインターネット事業会社である株式会社ファンダンゴ制作担当取締役就任。

2002年 株式会社ファンダンゴの代表取締役就任。吉本興業東京本部 アジアプロジェクト チーフプロデューサー兼任。

2003年 株式会社ファンダンゴの代表取締役退任。東京電力との合併による株式会社キャスト代表取締役就任。

吉本興業東京本部 ブロードバンド事業部 チーフプロデューサー兼任。

2006年 吉本興業株式会社 制作営業統括本部 執行役員 権利開発センター長

株式会社ファンダンゴ 取締役 就任

株式会社吉本音楽出版 代表取締役 就任

2007年 株式会社よしもとファンダンゴ 代表取締役社長 就任

2008年 株式会社よしもとファンダンゴ 代表取締役社長 退任

現在 吉本興業株式会社 理事 100周年プロジェクト プロジェクトリーダー

(公職)社団法人 日本音楽事業者協会 理事



《講義概要》

吉本興業株式会社執行役員、吉本お笑い総合研究所理事としてコンテンツ産業界を牽引する中井秀範氏が、メディアとコンテンツの関係について講義を行った。

講義ではまず、吉本興業のコンテンツ戦略について、来年100周年を迎える吉本興業の歴史や裏話を交えながら詳細に説明。メディアの変遷に伴い戦略を打ち出し、常にメディアに規定されるコンテンツ展開の実態を解説するとともに、映画産業の興行収入やCD売上の内訳などについても説明し、学生に幅広い知識を与えた。

また、デジタルネット社会におけるビジネス戦略について、デジタル技術を活用したスピードの重要性を提示し、吉本興業グループの垂直統合型ビジネスモデルについても説明した。

加えて、これからのソーシャルメディアにおいて大切なことは信用であり、「本気」でなければ消費者には伝わらず、ビジネスにも繋がらないことを指摘した。デジタルネット社会におけるコンテンツ産業のあり方について、学生に新たな視点で考えるきっかけを与えた。

《受講生の感想》

●コンテンツ産業で生きていきたい自分にとって、第一線で働いている方の話を直接聞いたことは非常に嬉しかった。吉本興業についてはもちろん、映画、テレビなどのメディアについても詳しい話が聞けてよかった。特に私は今まで、映画やテレビなどのメディア側で物事を考えていたため、プロダクションの立場での内容は興味深かった。コンテンツ産業を見る自分の視野が少し広まったと思う。

立命館大学・映像学部・2回生

●「ソーシャルメディア」の中では信用が大切で、「本気」でやったことは「伝わる」のだということが心に響きました。私はCM、TV、雑誌などに興味があるのですが、将来作り物ではなく、そういった「本気」が伝えられるような企画を作りたいと思いました。

立命館大学・産業社会学部・3回生

●コンテンツは消費者に向けて情報を発信していく必要があり、そのためのツールとしてメディアが重要な役割を果たしている。コンテンツが普及していく中で、ラジオや雑誌からTV、そして次はインターネットへとメディアも移り変わってきたが、その過程でメディアの価値も高くなっていると思う。ネット文化が進化している今、消費者そしてコンテンツ産業界にとって、互いに関係性を高めるチャンスだと思った。

立命館大学・映像学部・3回生

●吉本興業のようなコンテンツを売りにしている産業と、その媒介となるメディアの関係がとても深いということが分かったように思う。デジタルの発展は制作者の思いを直接お客さんに届けることを可能にしたという点でそこにも影響を与えていたのかと考えさせられた。デジタルがコンテンツ産業のお金の流れを変える役割を果たしたということが分かった。デジタル・ネットの発展にも、コンテンツ産業の発展にも相互が重要な存在であるのだろうと思った。

立命館大学・産業社会学部・3回生

●今回はリアルなお金の話をたくさん聞いて良かったです。映画の制作会社は儲かる職場だと思っていたので、リスクが高いことを知って驚きました。映画もテレビも制作するたびに手数料を引かれるし、私が思っていたよりもはるかに厳しい仕事であることを学びました。

立命館大学・産業社会学部・1回生

●ハイリスク・ハイリターンではあると思いますが、エンタテインメント業界の魅力がとても伝わりました。私も中井先生のようにタレントをマネジメントして、将来様々なメディアコンテンツを使って総合プロデューサーになりたいと思いました。

立命館大学・産業社会学部・4回生

